

2013年3月期 第1四半期決算説明会 主な質疑応答(要旨)

Q-1

- ◆ 第1四半期決算は計画に対してどのような結果だったのでしょうか。第2四半期の収支見通しと合わせて説明してください。

A-1

- 第1四半期は航空運送事業の営業利益ベースで、計画を50億円ほど上回りました。営業収入では国内線旅客、国際線旅客ともにやや計画を下回り、合計で約20億円下振れましたが、営業費用が70億円ほど計画を下回りました。
- 燃油費は計画を若干上回りましたが、新規導入機材の稼働開始月の遅れなどを理由に減価償却費が計画を下回った他、整備部品外注費などが一部期ズレも含めて計画を下回りました。
- 現状の見通しでは、第2四半期の収入もやや当初計画を下回る可能性があります。第1四半期の収支が計画よりも良化したこと、第2四半期の燃油費がやや計画を下回る見通しであることを踏まえて、上期トータルで見た収支では計画通り推移する見通しです。

Q-2

- ◆ 国内旅客事業の第1四半期の状況、第2四半期の見通しを詳しく教えてください。

A-2

- 第1四半期の国内線単価は、前年の震災直後の状況に比べてプレジャー需要が回復した為、前年比で約5%低下しましたが、この点は想定通りです。
- 第2四半期の旅客数見通しは、7月+7%、8月+1%、9月+1%です。単価は当初計画通り、前年並みの水準となる見通しです。
- また、旅客数を前々年の同期比で見た場合、第1四半期▲0.7%、第2四半期▲0.3%となっており、需要が伸びていないように見えますが、前々年の上期は、プロモーション運賃による需要喚起を積極的に行っていたことがその理由となります。

Q-3

- ◆ 国際旅客事業の第1四半期の状況、第2四半期の見通しを詳しく教えてください。

A-3

- 第1四半期の国際線旅客は、計画前提値以上の旅客数実績となっています。方面別旅客数が欧州を除いて当初計画以上の実績となっており、全般的に需要は堅調です。特に、北米線はジョイントベンチャー効果が発揮され、成長が続くアジア方面との接続効果も出ています。
- 一方、単価については、ビジネスクラスが前年比約▲2%、エコノミークラスが約▲6%となっています。中国線におけるプレジャー需要の拡大の結果として単価が低下しており、国際線全体の単価を押し下げました。
- 第2四半期の需要見通しは、ビジネスクラスが当初計画の前年比+7%に対して、7月+10%、8月+12%、9月+6%(第2四半期平均+9%)、エコノミークラスが当初計画の前年比+8%に対して、7月+11%、8月+10%、9月+13%(第2四半期平均+11%)となっており、需要への懸念はなく堅調です。
- 単価は第1四半期に引き続き、計画よりも低めに推移する見通しですが、ビジネス需要の鈍化ではなく、プレジャー需要の回復による客体ミックスの平常化によるものです。その結果として旅客数は伸びていますので、適切なイールドマネジメントを通じて、収入を最大化させていきます。

Q-4

◆ 国際貨物事業の足元の状況はどのようになっていますか。

A-4

- 国際貨物は、円高、欧州債務問題から、主に電器関連を中心に日本発需要が弱い状態が続いています。それを補うべく、中国/アジア/日本との三国間輸送を取り込んだ為、結果的に単価が下がっている状況です。
- 下期の貨物需要期に向けて、単価を向上させていくことが課題です。沖縄ハブネットワークが国際宅配便の拠点として活用されるという動きも見られ、今後に期待しています。

Q-5

◆ 今期 190 億円を計画しているコスト削減対策の進捗状況を教えてください。

A-5

- トータル 1,000 億円のコスト削減計画のうち、今期 190 億円の計画は上期 80 億円、下期 110 億円となっていますが、第 1 四半期分の 40 億円はほぼ計画通りに進捗しました。減価償却費、人件費、外部委託費、販売費などが計画通りに削減できています。
- 人件費については、今後、運航乗務員の勤務体系の柔軟性や効率化を図ることが課題です。また、来年に持株会社制に移行するにあたり、間接人員の削減も必要です。時間のかかる取り組みではありますが、確実に実行していきます。

Q-6

◆ Peach の実績とエアアジア・ジャパンの予約状況について教えてください。

A-6

- ピーチの第 1 四半期の実績は目標ロードファクターの 70%強を達成し、業績も計画通りに進捗しています。現状は赤字で持分法損失を生じておりますが、3 年目での単年度黒字化を予定していますので、狙い通り、新しい需要を生み出しながら成長していくと見えています。
- エアアジア・ジャパンの運航も順調にスタートしています。旧盆時期は予約の満席便もあり、全般的に予約状況も順調です。

Q-7

◆ 国際線旅客について、今後の外航との競争についてはどのように見えていますか。

A-7

- 今年は、需要回復に期待が持てますが、震災の影響があった昨年に、休減便、小型化を実施した外航各社が、再び供給量を拡大させる局面にあるとみています。欧州線への A380 再投入や、中東系エアラインの参入などを注視しています。
- しかしながら、当社は自社の商品競争力に加えて、ユナイテッド航空、ルフハンザ航空と進めているジョイントベンチャーのネットワークを効果的に活用しながら、ビジネス需要を着実に摘み取り、競争に対応していくことができると思います。
- また、需給バランスを見極めながら、慎重なイールドコントロールも合わせて行っていきます。

以上